

Hondaの交通安全情報紙



Since 1971



Safety for Everyone

Hondaはすべての人の交通安全を願い活動しています。

編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内 〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1 TEL 03(5412)1736 http://www.honda.co.jp/safetyinfo/

編集人：吉田宏樹 ※年間購読をご希望の方は、下記までお問合わせください。(株)アストクリエイティブ 安全運転普及本部係 TEL 03(5439)1191 E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp



SJホームページは ホンダ SJ 検索

CONTENTS

- 特集①高齢者への交通安全教育 高齢者に自己評価技能を身につけてもらうための教育が必要……①
特集②Hondaの福祉関連安全運転教育プログラム 運転する喜びを再び感じてもらうために……③
現場訪問/日本郵便輸送(株)……④
TOPICS①/家族で学ぶHondaの交通安全教室……⑤
TOPICS②/交通指導員教材研究会……⑥
③/第15回セーフティジャパンインストラクター競技大会……⑥
④/国立長野工業高等専門学校……⑥
危険予測トレーニング(KYT)/横断歩道の手前に車両が停車している時(四輪車編)⑦
指導者ファイル/岩手県奥州市交通安全教育専門員の皆さん……⑦
SJクイズ……⑦
SAFETY FOCUS/静岡県静岡市……⑧

特集① 高齢者への交通安全教育 高齢者に自己評価技能を身につけてもらうための教育が必要



平成25年の交通事故死者数を年齢層別にみると、高齢者(65歳以上)が2303人と、半数以上を占め、状態別にみると歩行中が約49%、自動車乗車中が約27%、自転車乗用中が約16%となっている。また、原付以上運転者(第1当事者)による交通事故件数を年齢層別にみると、高齢者による事故だけが增加している。こうした状況の中、高齢者への交通安全教育はどうあるべきか、各地域で展開されている教育の事例や識者の提言から探る。

5年以上も継続している「いきいき運転講座」

京都府田辺警察署(京都府京田辺市)では高齢者への交通安全教育に「いきいき運転講座」(下記参照)を取り入れている。同警察署が行政(京田辺市)にはたらきかけ、平成20年から「いきいき運転講座」を市の公民館で定期的に開催することになったのがきっかけで、これまでに583回開催し、延べ2万8300名が受講した(平成26年7月現在)。指導を担当する同警察署交通課交通指導係の戸石節子さんは「受講者は毎回、市の広報誌を通じて公募していただくなど、行政の協力があって、ここまで継続できました。また、この講座を体験され

「交通脳トレ」の後は、「交通安全トレーニング」の1つ「自分の運転を振り返る」。他のドライバーの運転行動をビデオで撮影した映像を観察して、問題点を話し合う。今回、戸石さんが用意したテーマは「信号機のない交差点での右折」。クルマやバイク、自転車が接近しているにも関わらず、右折を開始してしまうといったヒヤリとする交通場面がスクリーンに映し出された。こうしたケースの危険パターンを以下の4つに分類。「見落とし型」「二輪車など他に注意を奪われて四輪車を見落とす」「接近車両軽視型(先頭のクルマが四輪車なら右折しないが、二輪車なら出てしまう)」「スピード見誤り型(迫ってくるクルマの速度を実際より遅く感じてしまう)」「カルガモ親子型(前のクルマに続いて出てしまう)」



田辺警察署交通課交通指導係の戸石節子さん

他者の運転を見て自分の行動を振り返る

た方々の口コミもあり、公民館以外での開催の機会も徐々に増えています」と話す。8月5日、田辺警察署による「いきいき運転講座」が京田辺市社会福祉センターで実施された。今年には既に6月と7月にも開催しており、今回は第3回目となる。この日は15名の高齢者が受講し、「いきいき運転講座」の開発に携わった東北工業大学名誉教授の太田博雄さんも視察に訪れた。まず導入として、「交通脳トレ」が行われる。受講者は、あらかじめ配付されている教材「交通脳トレ3ヵ月」という冊子を開き、「文字ひろい」や「まちがい探し」に取り組み。「文字ひろい」では、違う種類の記号がちらばっている中から指定されたもの(下記参照)に丸をつけるというものである。こうしたトレーニングは、危険を予測する時に働く脳を活性化させることがわかっている。



「いきいき運転講座」は、4つの「交通安全トレーニング」と「交通脳トレ」を組み合わせることによって、効果的に安全運転能力や安全意識、脳機能を高めることを目的とした高齢者向け交通安全教育プログラムである。(一社)日本自動車工業会(以下、自工会)が平成20年に開発し、以来、多くの地域で活用が進んでいる。ドライバーだけでなく、運転免許のない高齢者も自転車、歩行者、助手席同乗者の立場から参加することができる。また、リーダー用教材として、講座の進行を行うためのマニュアル(台本)も用意されているので、地域の指導者や高齢者自身が自分たちの力で講座を進行することも可能になっている。

「いきいき運転講座」の進行を行うための台本が取められたリーダー用教材などは以下の自工会ホームページからダウンロード可能。http://www.jama.or.jp/safe/safety\_elderly/

「待たされてイライラ型(交差点のクルマが途切れないため、つい強引に出てしまう)」。戸石さんは受講者に「皆さんはどのタイプに当てはまりますか?」と問いかける。「私はカルガモ親子型です。前車に続いて出ようとしたら、そのクルマが急ブレーキをかけたので追突しそうになりました」「見落とし型とスピード見誤り型でしょうか。自転車や原付がないと思って、右折を始めた時に直前まで来ていたということがあります。若い人はスピードを出しているのに、いつの間にか近づいているとい



「交通脳トレ」では受講者が「文字ひろい」や「まちがい探し」に取り組み

「文字ひろい」では、違う種類の記号がちらばっている中から指定された記号に丸をつけていく





## 特集① 高齢者への交通安全教育



「交通安全トレーニング」の1つ「自分の運転を振り返る」ではビデオの映像のような場面でのような運転をするか、戸石さんが受講者一人ひとりに質問していく



田辺警察署による「いきいき運転講座」を視察した東北工業大学名誉教授の太田博雄さん

「感じます」と、自分がヒヤリハットした経験をもとに受講者一人ひとりが語っていく。戸石さんが今回の映像に出てきた場所に似ている交差点が京田辺市内にもあるという、ある受講者が「あそこは危険だから、私はそこを通らずに信号機のある場所を通るようにしています」と発言する。「それが安全です。危険と思われる場所を避けることも、事故に遭わないためには有効な選択となります」と戸石さんは補足した。今回の「いきいき運転講座」を視察した太田さんは「4つのパターンのどれに自分が当てはまるのか考えることが、高齢者に日頃の自分の行動を振り返るきっかけになり、講座の目的を果たしていました。話し合いの中で、自ら気づいてもらうことが大切です。また、ビデオに登場する交差点と似た場所として、高齢者が知っている地元

がふくらみ効果的だったと思います」と戸石さんの指導を評価する。

戸石さんは「いきいき運転講座」は高齢者の皆さんとコミュニケーションをとりながら進められる点が良いと感じました。台本があるので、経験の浅い警察官でもスムーズに講座を進行できます。ワークシートの存在も重要です。ワークシートに記入するという工程もあるので記憶に残りやすく、「勉強できた」という実感を持っていただけるようです。高齢者の学習意欲を刺激する仕組みが、また次回も受講してみたいという気持ちにさせるのだと思います。ただし、こうしたスタイルは高齢者からどんな発言が出てくるかわかりません。ですから、いつも緊張感を持って臨んでいます。指導者側の立場では結論ありきの一方的な座学のほうが楽かもしれませんが、それは教育の効果は期待できません」と語る。「高齢者の方々には運転免許の返納という選択肢もありますが、やめるよりは元気で運転を続けてほしいと思って、こうした安全運転教育に取り組んでいます」。



用意されたワークシートに自己評価の点数を記入してもらう

### 実際にはできていないことに気づく

「いきいき運転講座」には、誰でも話し合いの進行役を務められるように台本を用意されている。「台本を読みながらでもいいので、まずは気軽に使ってみてほしい」と、太田さんは活用を訴える。

福井県大野市専任交通指導員である湯口和歌子さんは、本田技研工業(株)安全運転普及本部浜松普及ブロックを通じて「いきいき運転講座」を知り、9月3日に開催された「大野市シルバー交通安全推進員講

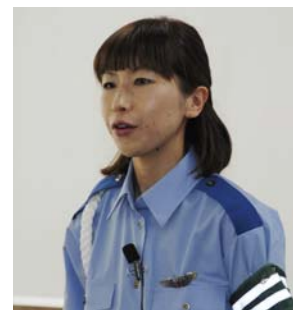
習会」で初めて取り入れた。受講者は大野市内の老人クラブで交通安全の推進員を務めている高齢者27名。

受講者に「交通脳トレ」をやってもらった後、「自分の運転を振り返る」を始める。湯口さんが選んだテーマは「信号機のない交差点の通過」。「止まれ」の標識がある交差点を通過していくクルマの様子がスクリーンに映し出される。15台のクルマが通過するが、停止線の手前で一時停止して安全確認をしていると思われるクルマは1台もいなかった。こうした場面で自分ならどのように通行するか、湯口さんが受講者に問いつたが、もしかしたら止まっていなかったかもしれない」といった声を受講者から上がった。

80歳の男性は「指導員とやり取りしたり、受講者が発言するような講習会は初めてです。自分は意識が高いと思っていても、実際にはできていないことがあることに気づきました」と感想を語る。湯口さんも「指導者の話を聞く、映像を見る、受講者が発言するというパートを区切れるので進行に



大野市シルバー交通安全推進員講習会での「いきいき運転講座」は高齢者27名が受講



大野市専任交通指導員の湯口和歌子さん

### 自己評価技能をいかに身につけてもらうか

メリハリをつけられ、使いやすい教材だと感じました。高齢者の皆さんも飽きない内容だったと思います」と、こうした教育手法を取り入れていく考えだ。

京田辺市と大野市で使用された「自分の運転を振り返る」というプログラムでは受講者に映像を見る前と見た後、同様の交通場面自分だったら、どのような運転をするか、自己評価(100点満点で採点)をしてもらっている。太田さんによれば、これは他者の運転を見て、受講者に自分の姿や行動を正しく評価する能力(自己評価技能)を身につけてもらうことを目的としているという。「ビデオの映像をきっかけに、高齢者に安全と認識した自分の姿と現実の自分の姿のズレを認識してもらうことがねらいです。自分は安全運転についての現実の姿が理想像と比べてどのくらい近いのか、あるいは遠いのか、自分自身で結論を導く。これが自分を外から眺める力を養うこととなります。映像を見た後に、自己評価の点数を下げた人は、自分の日頃の運転を振り返ることで、危険な自分の姿に気づいたということになります。この時、起こっている心理的過程こそが自分で自分を教育している姿ということなのです」。

### 歩行者や自転車利用者への教育にも応用

ホンダが開発した「交通安全ビデオ講座」は太田さんが監修し、歩行者および自転車利用者の特化した教材である。「他人の振り見て」という他者観察の手法は教え込む手法に比べ、心理的リアクティクス(抵抗)を軽減できるというメリットがあります。これはドライバーだけでなく、歩行者および自転車利用者にも有効です」と太田さんは説明する。歩行者や自転車の交通行動を観察することで、高齢者に日頃の自分の歩き方や自転車の乗り方を振り返ってもらい、事故防止につなげてもらうことを目的としている。「いきいき運転講座」同様、他者の映像を見たり、その前後で自己評価



「交通安全ビデオ講座」は歩行者・自転車利用者を対象にした教材



Hondaでは浜松普及ブロックを含む全国5カ所にある通じて「交通安全ビデオ講座」を地域に普及している



を行うプロセスも盛り込まれている。ホンダは「交通安全ビデオ講座」も全国の各地域への普及を図っている。大野市専任交通指導員の湯口さんは「特に市街地では、徒歩や自転車で移動する高齢者の方が多いので、「交通安全ビデオ講座」も使ってみてほしい」と話す。「車両の安全性の向上や道路環境の改善で、交通事故死者数は減ってきました。あとは実際に交通社会に参加する人への教育です。そこで重要になるのが自己評価技能を身につけるということ。自分を外から眺める力があるということは自分の行動を管理できるということ、安全行動につながります。できれば、高齢者になる前の40代、50代の段階から自己評価技能を養成する教育を受けてもらうことが理想的です」と、太田さんはいふ。